

〈統計ピックアップ〉



甘い話より、堅い話を



はいさい、ぐすーよーちゅーうがなびら。なー2月なてい、いちゅなさる時期やいびーんやー。

というわけで、もう2月です。今月は、あえてチョコやらなんやらの甘い話は抜きにして、たまには堅い統計について考えてみましょう。お菓子でも食べながら気軽に読んで頂けたら幸いです。

皆さん、「経済波及効果」という言葉をご存じでしょうか？新聞等で、プロ野球キャンプだったり、マラソン大会だったり、経済効果〇〇億円というような報道を目にする機会も多いかと思います。この耳馴染みの「経済波及効果」ですが、どのように計算されているかということを知っている方は意外と少ないかもしれませんね。

そもそも「経済波及」とはいったいどのような現象なのでしょう。

右の図1をご覧ください。車の生産を例に、経済波及効果を考えてみましょう。車を1台、生産しようと考えた場合、何が必要でしょうか。タイヤや車体、窓等々たくさんのパーツが必要となります。これらを組み合わせると、1台の車が完成するわけです。となると、車を作るには、まずは、それぞれのパーツを作らなくてははいけませんので、タイヤ産業、車体産業、窓産業のような、それぞれの関連産業が生産を開始します。

そうすると、どうでしょう。それぞれのパーツを作るには、また、さらに材料が必要になります。タイヤを作るにはゴムや金属、窓には珪砂や石灰。さらに、ゴムを作るには樹脂が必要で…というようにどんどん生産が波及していきます。また、生産活動が盛んになれば、雇用者所得も増え、その分消費も増えていき、さらに経済が活発になります。これがいわゆる「経済波及」というものなのです。

では、実際にこの効果を計算するには、どうしたらいいのかわかりません。一般的には「産業連関表」という表を利用し、計算します。少し難しそうですが、これはどのようなものなのでしょう。

車の例から分かりますとおり、産業というものは、それぞれ密接に繋がっています。この産業同士の繋がりや経済構造を地域単位で分かりやすく、表にまとめたものが産業連関表(表1)となります。この表を利用することによって、地域経済全体の把握ができ、先に説明したような経済波及効果の計算もできるのです。(詳しい計算方法は、『産業連関分析』をお調べください…)

沖縄県統計課では現在、平成27年沖縄県産業連関表を鋭意作成中です。(現在の最新表は平成23年版)

産業連関表は、各種施策の立案や、県経済構造の分析の他にも重要となる統計資料となっておりますので、皆さん一度、ぜひご覧になってみてください！県内産業間の関係を数字(データ)で見ると、新たな発見があるかもしれませんよ。

さて今回は、ちょっと難しい話でしたが、どうでしたか？

社会や経済は、お互い助け合い、支え合いながら成り立っているんですね。

【沖縄県産業連関表】

http://www.pref.okinawa.jp/toukeika/io/io_index.html

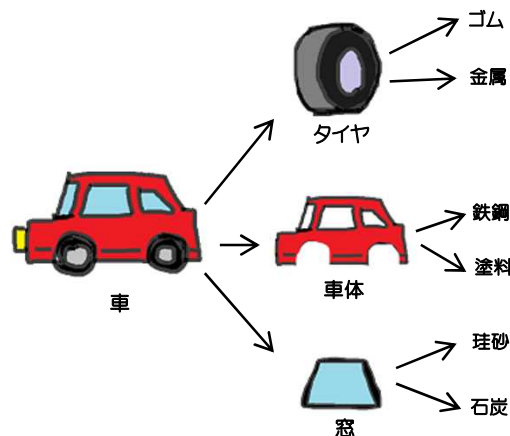


図1:経済波及効果イメージ

需要部門 (買い手)	供給部門 (売り手)	中間需要 (A)				最終需要 (B) 消費+投資+輸移出			(控除) 輸移入 (C)	県内生産額
		第1次産業	第2次産業	第3次産業	計	県内最終需要 消費+投資		輸移出		
						消費	投資			
中間投入 (D)	第1次産業	201	580	146	928	249	3	415	△545	1,049
	第2次産業	264	5,198	5,602	11,064	4,232	7,372	1,764	△12,315	12,118
	第3次産業	184	2,231	12,751	15,165	31,807	779	7,235	△5,966	49,020
	計	648	8,010	18,499	27,157	36,289	8,154	9,414	△18,826	62,187
粗付加価値 (E)	雇用者所得	252	2,466	17,321	20,141				15	△210
	営業余剰	32	510	6,556	6,997				0	0
	資本減耗引当	134	452	3,762	4,348				2	△34
	その他	-18	680	2,882	3,543				5	△73
	計	401	4,109	30,521	35,030					
	県内生産額	1,049	12,118	49,020	62,187					

表1:平成23年沖縄県産業連関表(取引基本表)(3部門表)

(資料)沖縄県統計課「平成23年沖縄県産業連関表」

横に読むと販売先

	A産業	B産業	最終需要	生産額
A産業	130	120	150	400
B産業	180	270	50	500
粗付加価値	90	110		
生産額	400	500		

縦に読むと

↑例えば…
縦に読んでみると、A産業は原材料をA産業から130、B産業から180買い、付加価値を90つけて400の生産を行っていることが分かる。
横に読むと、A産業はA産業に原材料を130、B産業に対しては120、一般消費者など(最終需要)に150売っていることが分かる。

図2:産業連関表の構造